

SAPIENTIA

Alma Mater



英知大学同窓会会報

Vol. 12
Oct. 15, 1999

発行：英知大学同窓会
〒661-8530
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
発行責任者：野村 裕
編集：英知大学同窓会

- 6期をふりかえり今後に向けて……………1
- 同窓会の皆さんへ……………2
- 同窓会事務局便り……………2
- 英知大学で学んだ「ソロモンの智慧」……………3
- 親愛なる英知大学の皆さん……………3
- 行ってきました!! 関東支部……………4
- 第9回関東支部総会を終えて……………4
- 和歌山グループから……………5
- WINDOWS……………5
- 退官された先生方……………6
- HOME COMING DAY!によせて……………6
- 事務局よりお礼……………6
- 卒業生コマercial……………7
- お悔やみ申し上げます……………7
- 耳より情報……………7
- 今年のホームカミングデーはすごいよ!!……………8
- 編集後記……………8

6期をふりかえり 今後に向けて

会長 野村 裕



新役員になり、はや6年を終えました。この間、皆様はじめ、役員の方々、大学当局の教職員の皆様には多大なるご協力を賜り感謝いたしません。

今となってしまえば、前も後もわからずスタートした時を懐かしく思います。この間、皆様に支えられながら情熱を持って走ってきた様に思います。

年々卒業生が増えていくと同時に同窓会会員も増え続け、会員が1万人になるまでに足腰の強い同窓会組織を作り上げなければならぬという焦りを感じながら、一歩一歩できることからがんばってきたという役員の自負心があります。

ただ、会員皆様及び大学当局に対しては、一方通行的にならざるをえない側面があり、どこまで満足に対応できたかは甚だ疑問な点は残ります。

ただ、いい訳がましい事ですが「側面的に大学を支えていこう、あるいは改革しよう」という強い意思のもと、役員一同努力を積み重ねてきたことはご理解願いたい部分です。

最近、我々の大学においても、世間一般の大学にあるような不祥事が起こってきており、世の流れなのか、在校生の数が増えたことによることなのかは定かではありませんが、今一度大学運営及び同窓会の運営を真剣に考えなければならぬ時期に来たと思います。

世間一般では、少子化の波が押し寄せ今より以上に「選ばれる大学像」が叫ばれてきております。

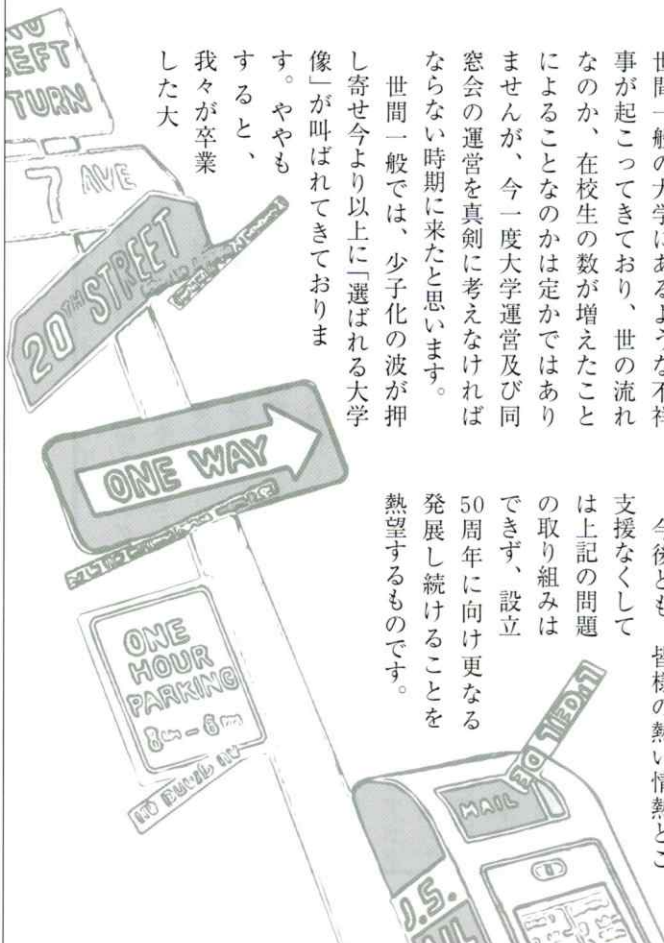
いや、我々が卒業した大

学が消滅する危機も冗談ではなくなる可能性が出てきております。我々一般社会においても、老舗と言われる大会社が、世の流れに追いつけず倒産の憂き目に遭うと言うことが日常茶飯事の出来事になっていきます。

現に、我々卒業生の方々の中にも、この不運に遭われた方もいらっしゃると思います。

この先不透明な時代になり、我々は益々真剣な大学経営を熱望し、また、我々同窓会の役割も重大なポジションになってくるものと思えます。その中で、我々は何ができるのか、何をすべきなのかを今後周知の事実として行動を起こさなければならぬと考えます。

今後とも、皆様の熱い情熱とご支援なくしては上記の問題の取り組みはできず、設立50周年に向け更なる発展し続けることを熱望するものです。



同窓会の皆さんへ

学長 岸 英司



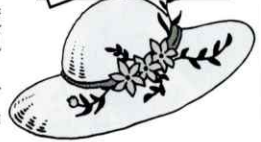
同窓会の皆さんは、ご卒業の後、社会の中で活躍の事と存じます。今日では、英知大学は5学科をもつ大学で、いろいろな職種でお働きです。外国で活動されている卒業生の方もおられますし、内外の大学院に進まれ、教職に就いておられる方もあり、喜ばしいことです。

少子化の現在、どの大学も受験生の確保に苦しんでいます。皆さんの2世が本学に入学され、卒業された方やら、在学中の様子もおられます。皆さんにお願いしたいことは、いろいろな機会を利用して、英知大学を宣伝して、入学者の確保と卒業生の就職のためにもご尽力下さいば幸いです。

同窓会の皆さんと共に英知大学がさらなる発展を遂げるよう祈ってやみません。

同窓会 事務局 便り

98英文卒 渡辺 千晶



昨年3月英知大学を卒業し、初めてひとり暮らしをした大学まで5分で行ける愛着あるアパートを後にして姫路へ移り住み、約1年某出版社で営業をしていました。しかし、もう1度自分の夢である教職を目指そうと決心し、会社を辞め、私は再び英知大学のある園田へ戻ってきました。

そんな私のところに、ある人の紹介で同窓会事務局の仕事の話があり、今に至ります。そして、厳かな雰囲気漂う本館1階の1室で仕事を始めて、もうすぐ半年が過ぎようとしています。

きまして、会費のチェックをし、みなさんから寄せられた情報を基に次回名簿発行に向けてのデータの更新をし、その他事務局にかかってくる電話の応対や役員との連絡を取ったりと、なんとか周りの人々の協力を得てがんばっております。

また月1回の役員会にも参加しています。忙しい仕事の合間をぬって役員が約10名集まり、同窓会の運営や活動、未来の大学や同窓会の在り方などについて熱く語り合っています。卒業したての(1?)私達世代には、まだまだ同窓会や大学に対して感じるころは少ないと思います。しかし、世代の違いこそあれ、それぞれが様々な思いを抱いて入学し、たくさんの友人や先生方、先輩・後輩と出会ったことへ喜びを感じ、勉強やクラブ、バイトに励んだり、思いっきり遊んだ楽しかった日々、また挫折したり、いろんな事へ反発を感じたり衝突したりした日々を、同じ「英知大学」と言う場所でも過ごしたことで、卒業した今、たぶんほとんどの方が「英知大学で良かった」

という共通の思いを持っているのではないのでしょうか。そんな気持ちをなんらかの形にしようとして活動しているのが、数十名の役員からなる同窓会ではないだろうか、とこの仕事を通じて感じています。

今年も11月3日のホームカミングデーが近づいてきました。今回は初の試みで、大学祭実行委員会と協力して大学祭もホームカミングデーも盛り上げていこうと計画し、着々と準備が進んでいます。内容についてはのちほどたっぷりとお伝えしますが、11月3日には是非お越し下さい。もちろん、いろいろな都合でお越しいただけない方もおられると思います。その中にもあの人に会いたい、あの人はどうしてるかな、など思われている方もいらっしゃるでしょう。まだ卒業して、1年しか経っていない私の周りでも、それぞれの生活にたくさんの変化があります。5年、10年、20年、30年経つともっとあると思います。近況報告をかねてそんな変化を知らせたい！という方、委任状などと共に是非お寄せ下さい。ホームカミ

ングデーや会報などで必ず皆さんにお伝えします。また、イベント企画やご意見など、お手紙、FAX、お電話なんでも結構です、事務局の方までお寄せ下さい。今は、年に1度のホームカミングデーと年に2度の会報だけで、リアルタイムでお届けできない状況ですが、そのうち、いつでもどこからでもすぐにアクセスしていただける状態になればと思っています。

本当にこんな頼りない私が事務局のお仕事をさせて頂いていいのだろうかとなんだか申し訳ない気持ちでいっぱいですが、この仕事を通して、少しでも皆さんのお役に立てればと思います。同窓会へのご支援、ご協力をこれからも変わらずお願いいたします。

《お問い合わせ先》

英知大学同窓会事務局

渡辺まで

TEL) 06-64986258

※月・木・金曜日の9:00AM~4:00PM。それ以外は留守番電話、FAXが受け付けますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



英知大学で学んだ

「ソロモンの智慧」

大阪明星学園勤務
77神学卒 市瀬 幸一
(マリア会司祭)

英知大学を卒業して二十
年が過ぎてしまった。卒業
して教育現場で働き、その
後、数年間海外研修を終え
帰国した。現在の勤務地は
大阪である。この間の勤務
地は札幌、長崎、東京であ
った。特に東京では同窓会
関東支部の皆様にお世話に
なった。どの学校にも英知
の同窓生が教師として働い
ており、同僚であった。彼
らは教育現場で情熱を持っ
て生徒たちと接していた。
もちろん私もそうである。
帰国して新聞等ニュース
で耳にする「教室崩壊」の言
葉は、海外では耳にしな

った。最近の造語であろう。
帰国して札幌、長崎の元同
僚、つまり同窓生と話をす
る機会を得た。待ち合わせ
の時間になんと若い同窓生
達も一緒にあった。彼ら
も教育の現場で働いている
のである。小さな同窓会で
あった。話題は教育の話か
ら始まり、現場での苦労話、
そして英知時代の思い出話
へと突入した。各人の英知
での思い出話である。それ
ぞれに、英知では多くのす
ばらしい教授との出会い、
思い出多き英知祭、体育祭。
そして、現在の教育現場で
生徒に影響を与えている、
人間形成に影響を与えた英
知の教育環境にまで及んだ。
英知大学、それは小さな大
学であり、それが為に家庭
的な雰囲気教授と接し、
多くのことを学ぶことがで
きた。そして、何にもまし
て大切な宗教的環境は英知
大学ならではのものではあ
らう。旧約聖書の中の「ソロ
モンの智慧」、知識と人間
的な判断力、包容力はいつ

の時代にも必要なものであ
る。これらを備える彼らの
学校でこの「ソロモンの智慧」
を發揮しているのである。
そして「どこか違う(ソロモ
ンの智慧が有る)」といわれ
る時、私も含めてうれしく
感じる。
現在の学校は、学校の役割
が「知的」一辺倒から「い
やし」の役割も兼ねてきて
いる。これから先は「いやし」
の役割がもっと比重を占め
てくるのかもしれない。そ
れは「やさしさ」であり「思
いやり」である。「いやし」
を教育現場で実行できるの
は、英知で学びまた自分自
身の体験から得たものであ
る。教育現場で働く同窓生
が私も含めて「ソロモンの
智慧」を發揮できることは
すばらしいことだと思ふ。
また後輩諸君も「ソロモ
ンの智慧」を身につけてほしい。
これからの英知大学の發
展を願ひ、英知で学んだこ
とを發揮している同窓生の
健康を祈願しています。



この短いメッセージを皆さ
んにお送りするのはうれしい
ことです。このメッセージが
私達の間に友情と国際化の橋
をかけてくれるよう希望しま
す。キリスト教大学を卒業し
た皆さんは英知大学に在る間
に一般的な知識ばかりでなく、
キリスト教の本質をも身につ
けられたことでしょう。ご存
知のように、わたしたちは皆
間もなく第三千年期、すなわ
ち、キリスト誕生の大聖年の
始まりを祝います。このこと
は、皆さんにとって、非宗教
的な大学へ行った人と比べて
特別な意味を持つているに違
いありません。しかし、キリ
スト教は、たんにお祭りの機
会やそのような機会を祝うこ
とを意味するものではありません。
キリスト教は愛です。
貧しい人びとを愛すること、
苦しんでいる人々を愛するこ
と、日常生活で出会うどんな
見知らぬ人をも愛すること

す。わたしたちの愛を必要と
している人びとを愛すること
によってはじめて、わたした
ちは世界の民と呼ばれるにふ
さわしいものとなるのです。
親愛なる英知の学生の皆さ
んは、皆さんが与えることの
できるすべての関心と愛を世
界に与えることによって、全
世界を助けることができます。
また、そうすることによって、
皆さんは貴重な英知の大使と
なるでしょう。神は何か特別
な理由で、皆さんが英知で大
学の勉強をするようお望みに
なったのです。皆さんは偶然
にキリスト教大学に來たので
はありません。皆さんが若い
うちに自分の運命について熟
考する機会がなかったとすれ
ば、今がその時かもしれない
です。英雄的行為を成し遂げ
るに遅すぎるといふことはあ
りません。そして、今がその
時かもしれない。皆さんの
人生が、仕事においてまた家
庭において、幸せいっぱいそ
して成功に満ちたものとな
りますようお祈り致します。ど
うかすべての皆さんが、この
国においてまた地球上のすべ
ての国において、喜びを与え
る人となりますように。
英知大学万歳！

行ってきました!! 関東支部総会

89 佐文卒 地村 昭彦

6月26日、関東支部総会が毎年恒例の6月の第4土曜に行われ、一部、本部よりも活発な活動が行われるという関東支部との親交を深めるべく今年も、3名の本部役員(和田、泉、地村)が参加致しました。

場所は、これも恒例となりましたJ R目黒駅西口の高級中華料理店香港園(英知大学卒業生の御主人が経営なさっておられます。)でおいしい料理を堪能しながらの楽しい会合となりました。

当日は、あいにくの雨模様で出席者は18名と昨年を下回りましたが、初めての参加者が昨年より多く見られ、また海外からこのために来日しておられる方もいらっしゃるなど、関東での英知大学同窓生の深い繋がりを認める事が出来ました。

また、関東支部では、総会時に記念講演と題し英知大学の先生方をお招きして講演を

開催されていて、今年は、昨年のホームカミングデーで定年のご退官を皆で御祝いさせて頂いたポール・スクルス神父の「東洋(日本)・西洋(ベルギー)と国際化」と題し講演を行って頂きました。

ご自身の日本での体験を非常に興味のあるお話をお聞かせいただきました。自身自身の生活の中でも当てはまる事も多く、特にこれからの、国際化する社会においては、英語が不可欠とのこと、在学中にスクルス神父からフランス語で苦学した私などは、神父からこの様な話が出る事が、不思議でもありません。また説得力のあるものに感じられました。

最後に、関東という母校の地元から離れたところで、同じ大学の同窓というだけでこの様な集まりが開かれている事を本当に誇りに思います。

この日は、この一次会で話が尽きず、二次会、三次会と流れていき時の過ぎ行くのも忘れ、旧交を温めました。

来年は、関東支部も10周年を迎えられるとの事、益々のご発展を祈念いたします。

第9回 関東支部総会 を終えて

78 佐文卒 永森 孝夫

毎年6月の第4土曜日に関東支部の総会を親睦を深めるため、おいしい料理に舌鼓を打ちながら実施しています。今年も、昨年同様からスタートさせた、同窓会には参加したいと思いつながらなかなかきつかけが掴めず、そのままになってしまっている会員のために最後の一押しをするため、昨年は井上神父をご招待し、講演をしていただいたことで、在学中にお世話になった英文科卒業の方々にも多数ご出席頂きました。

そこで今年も第2弾として、ちようど前回のホームカミングデーのときに退官のお祝いをされたばかりの仏文科のポール・スクルス神父をご招待させて頂きました。今回の講演の演題は「東洋(日本)・西洋(ベルギー)と国際化」という日本人よりも日本を良くご存知の神父の実体験に基づいたものでした。英知大学という性格上、私も含めてほとんどの方が海外思考を持っていると思えますので、ご本人も

しくはその子供たちが留学や仕事等で海外生活を希望される方は多いのではないのでしょうか。そのときにこの内容を知っているのといないのとでは雲泥の差が出てくるので以下にポイントをピックアップさせて頂きますのでお役に立てて頂ければ幸いです。

情緒的	論理的	宗教的	倫理的	社会的	地理的
日本↓感情的・主観的 ベルギー↑合理的・客観的	日本↓ものの両面性(相似的) ベルギー↑二者択一	日本↓民族宗教↑多神教と言うより多宗教 ベルギー↑普遍的宗教↑キリスト教(代表例)	日本↓恥の社会↑同質性↑状況倫理(その時々で判断が違つ) ベルギー↑罪↑独創性↑絶対倫理(柔軟性がない)	日本↓集団主義↑縦社会↑義務(服従)↑絶対主義傾向 例:教科書の内容まで統一(検閲) ベルギー↑個人主義↑横社会↑権利(自立)↑民主主義的 例:スイスでは年間15回も住人投票をする。	日本↓島国↑人種・言語・文化統一性↑国際化困難 ベルギー↑大陸↑人種・言語・文化多様性↑国際化は自然現象

以上はどちらが良い悪いではなく、この様な違いがあることをまず認めた上で、日本が国際化していくためには、個人的にお互いを認め合う(友好関係を築き友情へ)→文化(心を豊かにしてくれるもの)の交流を推進していかなければなりません。それをスムーズにしてくれるのが言語です。少なくとも英語は必ずマスターしましょう。しかし残念なことには今の英語教育にはまだまだ不備な点が多い。例えば英語の先生の中で何%の人がアメリカ等で実際に暮らした経験を持っているのでしょうか。ここから変えなくてはなりません。最後になりましたが、来年は関東支部創立10周年に当たりますので、大々的な記念行事を考えていますのでご期待ください。またこんなことがやってみたいというアイデアをお持ちの方は是非ご一報下さい。



WINDOWS

Kathleen Yamane
Department of English Language and Literature

Looking back on my early years in Japan, I now realize that those aspects of my new Asian home that initially dazzled me -- the solace of my Sunday evening tea ceremony classes; strolling the grounds of Todaiji Temple on a barren winter morning; the boisterous, colorful fun of the local matsuri--have little to do with the life I have carved out for myself here in Japan. As a full-time working mother, 1999 style, the adjectives most indicative of my lifestyle are the same ones that most of you would probably choose: hectic and busy! It's been a while since I have indulged in such pleasures as the tea ceremony or matsuri. I still get to Todaiji on occasion, but usually with visitors from abroad, playing tour guide rather than contemplative tourist.

Over the years, those typically Japanese delights have been replaced by a different set of pleasures, more in line perhaps with the values of my second home. I am writing this back home in upstate New York. While this summertime reunion with family and friends is high on my list of priorities, I chuckle at the things that I miss back in Japan. The soak in the hot bath at the end of the day. The cicadas that sing me to sleep most evenings. The neighborhood kids calling me 'Oba-chan!'

Another thing that might be added to the list is the importance of maintaining ties with classmates and old teachers. I used to wonder why my Japanese husband had so many class reunions to attend. I had assumed that they were all high school and college get-togethers, as in the States. It was several years before I realized that some of these were elementary school and even kindergarten class reunions. Amazing! Last year my 73-year-old father-in-law was invited to attend a reunion of his elementary school friends. And for his mother, meeting her old classmates from Shoin was one of her greatest joys right up until the time she died at the age of 88.

Why, you rightfully might ask, do I find this so amazing? Surely the New Yorker who spent two years in France before transplanting herself to Japan would not be around to participate in gatherings of her classmates in New York State. Well, to tell you the truth, I do regret having missed my class reunion. And yes, that is a singular: the only class reunion that has been held from my kindergarten, 12 years of elementary and secondary school followed by seven years at two different universities has been the 20 year class reunion of the Burnt Hills-Ballston Lake Class of 1974, and I missed it. We had expected a 25-year-reunion to be planned for this summer, but no one got around to organizing it. And college? The biannual newsletters bring me news of the distinguished researchers, teachers and athletes who were once my classmates, scattered literally all over the globe. The latest issue, kept for me in the top drawer of my old dresser, tells of an AIDS researcher and the recipient of the National Book Award for fiction, who used to live in my dormitory. I marvel at the successes of these people and feel pride in our collective contributions to the world. A short article on the back page talks of an anniversary mass to honor two young kohai, Lynne Harunian and Colleen Brunner, who were killed in Pan Am flight 103 when it exploded over Lockerbie, Scotland ten years ago. They were both foreign language majors on their junior year abroad, just like me, some 20 years ago. They, too, are part of our university family, and their memory should always remind us of the precious gift of life.

So while reading about my talented and generous classmates is a joy, meeting them on a regular basis is just not a part of American culture, as it is here in Japan. It is sometimes said that foreigners have unique insights into a culture and are best able to see its unique strengths, and that is the point of this article. As a non-Japanese, participation in the Eichi family has given me a rich feeling of roots and of belonging. I am grateful to have the opportunity to maintain contact with my former students, their parents and even, recently, their children. Remember, too, that windows are not only for looking out of, but also for looking inward. Maintaining ties with our teachers and school friends reminds us of who we are and is a vital grounding force in our busy lives. It is also a responsibility. Please realize that this is a very special characteristic of Japanese education and culture, and treasure it. I certainly do!

この夏、和歌山県内の高校生の英語研修の引率者としてイギリスに行って来ました。思えば私をはじめイギリスを訪れた

73英文卒
寒川 修吉

和歌山グループからの報告



のは1972年、大学4年生のときでした。大学主催の海外英語研修の第一回目の参加者としてイギリス南西部のトーカーでホームステイをしながら英語研修に励んだ日々が昨日の出来事のように思い出されます。現在ならともかく、1970年代において大学主催による学生の海外研修旅行の企画を先駆けて実践された当時の大学各位の国際交流におけるご尽力に頭の下がる思いです。その国際的視野に基づく先見性は流石、広く国際的分野において活躍する人材育成を教育理念の一環として掲げる本学なくてはできないものの一つであります。

今回の和歌山県の高校生による語学研修旅行はイギリス南東部の保養地、ヘステイングスに滞在し、現地でホームステイをしながらEFL Language schoolに通い、本場の生きた生の英語を実際の生活を通して習得していくというものでした。研修を終えた高校生たちは、各々、これから大学に進学したら必ず留学を志し、語学のみならず深く文化や学問の研鑽に励みたいと将来の抱負を瞳を輝かせながら語ってくれました。私の学生時代とは違い、現在は機会さえあればいつでも海外で語学の研修が出来るという恵まれた環境にあります。語学の習得において

は、たとえばどのように時代が変わろうともやはり地道な努力が必要でありましょう。高校生たちがホームステイをしている間に少し足を伸ばし、モロッコ王国を訪ねました。モロッコ国内では国王の死去を悼むため街の至る所に半旗が掲げられていました。宗教はイスラム教が国教で、かつてのフランス支配下におかれていた時期に栄華を誇っていたカトリック教会は今やほとんどのところで廃墟となりました。教会の周辺には人影も少なく、歴史の流れを感じました。西欧文明を象徴していたカトリック教会に代わり、今やモ

ロッコ国内の至る所には壮大なモスクが建設され、人々は基本的に義務であるイスラム教の五行を守り規則正しい生活をしています。フランスの支配下に置かれていたので国内ではフランス語が十分に通じます。英知大学では最近イスラム世界にもその学術的探求をすすめられていると聞きます。イギリスは当然のこと、モロッコをはじめアフリカ大陸の各国ともその学術的交流をすすめられ、姉妹校提携や文化交流等の活動を深め、日本国内のみならずその国際的知名度を高めますよう、大学関係各位の今後の取り組みを大いに期待しています。

学生時代、放送部員だった私は、イベントごとに司会やお手伝いをしたこともあり、学園祭がやってくると懐かしく思い、顔をだしたい気持ちでいっぱいになりながら、日々の生活に流

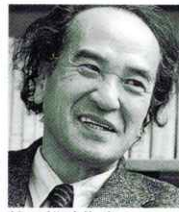
88 弘文卒 三田 伸子



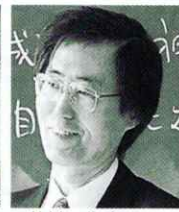
されることが多い昨今です。そんな中、前田総助先生が退官されるとお聞きしました。フランス語をついに習得することもなく、終わってしまった学生時代。クラブ活動を懐かしむ気持ちが多かった中で、前田先生は私にとって文学のイメージシンボルだったことを思い出しました。ニヒルな笑顔やベーターペンのような風貌、渋みのある声はその存在自体が文学そのものでした。卒論もすぐに断念し、フランス文学を追究するに至りませんでした。遠藤周作氏と前田先生は、いつか私もフラ

ンズ文学の芳を理解する洪くて素敵な大人になりたいという種を心に蒔いてくれたように思います。先生はご存知ないかもしれませんが、密かな隠れファンも多かったように思います。10年少し前に蒔かれた種が芽を出すように、先生の退官式に駆けつけて水遣りをしたいなあと思えます。もうすでに忘れてしまった時間そんな方も多いかもしれません。ゆっくり振りかえってみて懐かしいひとときをご一緒しませんか。

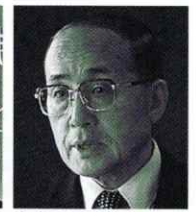
退官された先生方



前田総助先生



三竹洋一先生



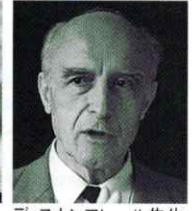
傘木澄男先生



三吉敏博先生



D・グリフィン先生



デ・スカンフレール先生

英知大学で教鞭をとられた、傘木澄男先生、三竹洋一先生、前田総助先生、ジルベール・デ・スカンフレール先生、ダニエル・グリフィン先生、三吉敏博先生の6名の先生方がこの春、退官されました。そこで、11月3日のホームカミングデーに、先生方をお招きし、退官のお祝いをしていただきたいと思いますところ、傘木先生、デ・スカンフレール先生、三吉先生との3名の先生が出席下さる

とのことです。残念ながら、前田先生、三竹先生、グリフィン先生は都合のため欠席ですが、皆さんによるしくとのことでした。尚、準備の都合上ご出席される方は、10月25日まで同窓会事務局の方までお知らせ頂きたくお願い申し上げます。先生を交えて旧友と再会し、学生時代に戻って楽しいひとときを過ごしませんか？多くの皆様のご参加をお待ちしております。

事務局より お礼

同窓会員の皆様にはお変わりなく御活躍の事とお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動に一方ならぬ御協力と御理解をいただきお礼申し上げます。

昨年度(1998年10月～1999年9月)に、終身会費・年会費を納入頂いた方のリストを掲載し、お礼に代えさせていただきます。有難うございました。

終身会費(30,000円)納入者		6092 マリカ・チャンボンボン		5204 弘 實 恭 子		2978 吉 野 正 和		4752 大 月 力 方	
614 脇山 ミネ子	3593 陸 有 美	183 諸 石 珠 技	5126 奥 典 子	2635 松 本 努	1175 池 田 典 夫	2211 安 本 芳 章	2209 矢 野 幸 秀	968 香 川 由 利 子	
448 渡 邊 昭 一	3587 藤 波 京 美	2636 野 村 伸 司	3151 平 井 義 文	126 秋 山 昌 子	5644 古 家 圭 史	968 香 川 由 利 子	3075 黒 田 誠	2018 赤 尾 律 子	
2184 井 上 純 子	4468 永 野 里 枝	3151 平 井 義 文	4616 田 中 直 樹	765 日 高 順 一 郎	1187 池 田 貞 子	2328 多 田 佳 代	33 神 尾 鈴 江	2266 寺 川 京 子	
3939 西 村 英 樹	1312 藪 田 純 一	178 服 部 悦 子	4247 大 嶋 志 伸	46 黒 羽 幸 代	6176 齊 藤 篤 嗣	3571 安 曾 田 眞 由 美	64 来 島 益 美	4703 大 松 信 幸	
3175 関 孝 和	5035 金 谷 明 生	6078 森 川 潤 一	6438 永 田 和 也	3143 長 野 邦 子	1377 山 川 八 重	5201 橋 本 実 生	2638 三 輪 壽 子	466 中 川 秀 子	
4330 近 藤 哲 夫	1500 藤 本 義 人	4243 長 田 直 也	6464 渡 邊 晋 也	1377 山 川 八 重	2788 稲 田 勝 己	1206 塩 見 孝 子	776 吉 崎 光 一	5536 木 原 明 子	
1039 中 村 優 子	516 前 田 小 百 合	6438 永 田 和 也	2298 里 見 真 一	1176 木 藤 直 樹	3689 田 中 僚 子	1097 片 岡 章 子	4627 横 山 泰 子		
1688 中 元 一 哉	2263 住 友 紀 章	6464 渡 邊 晋 也	740 湯 川 清	988 藤 井 眞 起 子	3989 木 村 ま き				
2595 塚 正 美 子	596 岡 田 秀 啓	740 湯 川 清	887 鳥 田 雪 子	3989 木 村 ま き	2813 古 成 真 由 実				
5220 坂 口 裕 子	394 松 下 美 千 代	887 鳥 田 雪 子	313 上 田 憲 治	2813 古 成 真 由 実	5893 清 友 俊 博				
821 阪 西 恵 子	976 亀 本 憲 寛	313 上 田 憲 治	1183 高 田 壽 郎	5893 清 友 俊 博	3461 中 尾 春 香				
4395 城 下 幸 子	297 松 本 徹 夫	1183 高 田 壽 郎	2971 坪 内 徹	3461 中 尾 春 香	5260 川 崎 仁 子				
654 塩 越 和 子	717 篠 輝 久	2971 坪 内 徹	3525 高 山 史 枝	5260 川 崎 仁 子	1657 奥 村 幸				
2177 山 本 優 子	4968 柳 本 秀 子	3525 高 山 史 枝	20 赤 木 公 子	1657 奥 村 幸	1435 岸 上 総 治				
5014 内 田 尚 希	1743 渡 辺 一 由	20 赤 木 公 子	429 新 井 寿 子						
4251 清 水 由 利	4594 神 尾 訓 子	429 新 井 寿 子	5163 前 川 朋 子						
5176 白 数 明 美	2570 土 井 修 也	5163 前 川 朋 子							
76 福 原 宏 章	3083 岩 城 範 子								
3187 北 川 祐 子	793 中 川 己 智 子								
2423 柳 原 正 治									
780 北 野 希 代 子									

※英知大学同窓会事務局へのご連絡は、Tel.&Fax. 06-6498-6258 または e-mail/sapiens@mbox.inet-osaka.or.jp



'91西文卒 永井 勝さん

会報に久々登場のこのコーナー、今回は神戸・三宮で「小台所・笑和屋」(こだいどころ・しょうわや)を営む、永井勝さん(91西文卒)にインタビューしました。

崎山 “小台所”とは面白いネーミングですね。

永井 『居酒屋』だと飲めない人には面白くないし、『小料理屋』だと何となく敷居が高い気がする。台所の様にみんなが集まって、気軽に利用してもらえればと思います、このネーミングにしました。

崎山 このお店のオープンには英知大学が深く関わっていると聞いたのですが。

永井 大学では4年間、西研(西語研究会)に所属していましたが、毎年大学祭ではスペイン料理の模擬店を出していたんです。そこで料理への興味が始まったと思いますね。学生

時代のアルバイトも神戸元町のスペイン料理を扱う店を選んだ位ですから。実は卒業後、一度はサラリーマンになったものの、半年で辞め、そのアルバイトをしていた店に店長シエフとしてもどったんです。料理を作ることの喜びや楽しみが忘れられなかつたんだと思います。

そして先の震災。その店でも炊き出しをしました。暗い気分のはずなのに何故か満たされた気持ちになつていく。僕の生きる道はこれだ!と決意し、独立したんです。だからこの店のオープンの究極のルーツには、西研があり、英知大学があるんです。

崎山 英知大学時代での一番の思い出は?

永井 先にも述べたように僕はクラブっ子だったので、そこでの事が思い出されます。その中でも一番は、大学祭の田吾作かなあ。猪八戒の格好して園田駅まで歩いたことは思い出したくない思い出です。(笑)

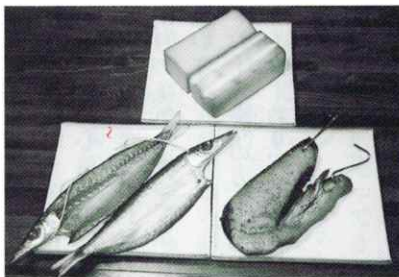
崎山 最後にお店のPRをどうぞ。



永井 酒好きには九州地鶏や薫製料理をぜひ自慢の焼酎で召し上がって下さい。飲めない方もスペイン料理でおもてなし致します。ぜひご利用下さい。

崎山 有難うございました。

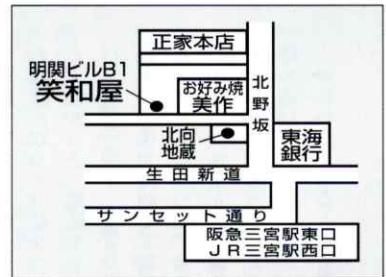
撮影/基田 高穂(95英文卒)
文責/崎山 知二(同窓会常任委員)



永井さんからの
大々サービス!!
この会報を持参して来店
頂いた方には瓶ビール1本
をプレゼント致します。
(期間/平成11年11月末日まで)



所在地/神戸市中央区中山手通1-8-1
明関ビルB1
電話/(078)321-6939
営業時間/PM5:00~AM12:00
(ラストオーダー/PM11:30)
休日/日曜、祝祭日の月曜



耳より情報



アルカイクホテルの宿泊割引があります。遠方よりお越しの方で、ご入用の方は事務局へご一報ください。



(お問い合わせ先)
英知大学同窓会事務局
渡辺まで
TEL/06-6498-6258

お悔やみ申し上げます
去る平成11年8月13日、アメリカンフットボール部の夏期合宿中に、本学英文科2回生の管直さん(21歳)が、くも膜下血腫で倒れられ、療養中の関西労災病院にて、同年8月16日永眠されました。通夜、葬儀の儀は、本学内にてご親族はもとより、学生及び教職員200名の参列のもと、とり行われました。
管直さんのご冥福をお祈りいたしますと共に、同窓会からも謹んでお悔やみ申し上げますことをご報告いたします。

今年の一歩 いっしょに ホーム チームは



副会長
藤本 滝三

又、11月3日が迫って来ました。同窓会役員が一年間の事業の総決算と意気込んでいます。

今年は特に、開学以来、初めての試みとして、現役大学祭実行委員会と同窓会合同で大学祭（11月3日のみ）を実施することになりました。折角、大学祭に来てもあまりにも寂しい人影と内容で、がっかりされて帰られた方もおられたと思います。その思いは我々として同じでした。かと言って余りにも学校とかけ離れた我々が出しゃばって、現役の方々がやりにくくなってはいけないと、老婆心ながら気を使い……？ おせっかいを焼いておられます。前号の会報の中で11月3日にサッカー部と硬式テニス部がOB戦を開催しますとお知らせしましたが、これに端を発してさまざまな催しの話が持ち上がってきました。

昭和58年度の卒業の方々同

期会。6名の退官される先生方の送別会。大学祭には、各クラブ対抗看板コンテストの資金援助。現役との合同大ビンゴ大会。

これでは五万円の旅行券、一流ホテル宿泊券等、豪華賞品がたくさんあります。模擬店への参加、おでん、スバゲティー、たこ焼き、そしてバザーコーナー、今回の目玉として、かなり長い間実施されていなかったファイアーストームをする事になりました。昔を思い出すと、火を囲んで皆んなで肩を組んで歌をうたい、フォークダンスを踊ったりもしました。今の若い方が聞けば「寒くぶう」と言われそうですが、それはそれで大変思い出に残るものでした。11月3日午前中はサッカーのOB戦、硬式テニスの集い、午後一時半からは、サピエンチアタワー10階で総会の開催、2時半から、食堂、運動場でのホームカミング

デー、最終は7時半頃にファイアーストームの火が消えて解散です。秋の心地のよい日に一日ゆっくりと学生時代にもどり、明日の英気を養って頂きたいと思います。

お子様連れの方々もご安心を。ヨーヨー釣り、缶落とし、型抜き、輪投げ等、楽しいゲームを用意しています。

また、恒例の卒業されて10年目（1989年・平成元年卒）、20年目（1979年・昭和54年卒）、30年目（1969年・昭和44年卒）の方々、会場入り口受付でお申し出下さい。記念品を用意しております。

■開催日

1999年(平成11年)

11月3日(祝)

■時間

同窓会総会

13時30分～14時30分

於：サピエンチアタワー10階

ホームカミングデー

ファイアーストーム

14時30分～20時頃

於：学生食堂・体育館・運動場

《お問い合わせ先》

英知大学同窓会事務局

渡辺まで

TEL/0664986258

皆さんが楽しめる紙面作りを。一昨年から掲げている目標も今だに達成されようとしていません。

「マイクを向けられると、ついその場を取り繕ってしまふ。本音が聞けるのはマイクを外した瞬間だ。」なんて記者たちの愚痴のようですが、この会報もそんな雰囲気の流れはいませんか？

原稿を依頼されるとつい、肩をいかせてしまいがちです。もう少しくだけた内容であつたり、会とは何の関係のない話が出てきても

おかしくはないと思いませんか？

けれども、集ってくる原稿を読むと、当たり障りのない、ありきたりの文章です。せめてこの編集後記だけは、そんな固い雰囲気吹き飛ばす自由なスペースでありたい。紙面を創っている者のみに与えられる特権なのですから。

意気込んで書いたつもりで嫌っていた筈のありきたりの文章が……あれ？

編集後記



「今度のホームカミングデーには行くからね。同窓会の仕事いつもありがとう。ご苦労さま。」かつての級友からの電話である。卒業してからというもの、一度も連絡を取っていなかった友から。懐かしさ、電話をもらった喜び、突然の連絡への驚きと戸惑い。様々な感情が交錯して電話ではどこかこちなかつた。会えば、長い年月も吹き飛んで、昔のままの会話に戻るだろう。今から再会が待ち遠しい。

6年。かつての熱意は、いつしか情性に変わりつつある自分がいる。このままでは諸先輩方に申し訳ないと、鞭を入れようとするのだが、鞭の先は空を切るばかり。けれども、ホームカミングデーに集り来る人達の楽しそうな笑顔を見てみると、この6年間の活動が決して間違っていないのだと感ずる。

今年は、友からの何気ない電話に、早くも勇気づけられたようだ。

前執行部から会を引き継いで早

英知大学同窓会 大月 力